

Desert Wind

(No.25 12月号)

LVJCC 牧師・鶴田健次

『感謝と讚美の世界』 (詩篇 95 篇 1-6 節)

心が豊かであるということは、豊かな人生を生きるための不可欠な要素です。いつも心が平安で、喜びと希望に満ちている人、それが本当に豊かな人で、その鍵となるのは「感謝と讚美の心」です。19世紀のイギリスの牧師ウィリアム・ロウは、こんな言葉を残しています。「あらゆる幸せと全きへの最も確実で、最短の道は何かと聞かれたなら、すべての出来事を神に感謝し、讚美する習慣を身につけることと答えるべきである。どんな不幸と思えることも、そのことで神に感謝し、讚美するならば、それは祝福へと変えられていく」

この感謝と讚美の基盤は、今の現状を私たちに對する神の恵み深い完璧な御心の一部として、全面的に喜んで受け入れることにあります。神は、私たちの最善以外は決してなさいません。つまり、私たちが経験するすべての事が、私たちに對って必然であり、神はそのすべてを相働かせて益として下さいます。それが神の約束です。ですから、私たちはどんな事にも感謝し、神を讚美することが出来るのです。また、それが神を信じていることの証しです。

ある人の一人娘が、自動車にはねられて脳を傷付け、精神病院に入院しました。夜昼なく、大声で叫び、髪の毛をかきむしり、親を見ても誰だか分かりません。その娘の父親は、悲しみに胸が張り裂けそうでした。「私の娘を生き返らせてください」と、彼は、毎日、心を注ぎだして神に祈りました。ところが医者たちは、「娘さんは脳が損傷したので、元に戻ることはできません。」と言いました。しかし、それでも父親は、熱心に祈り続けました。

ある日のこと、父親は車で娘の病院に向かっていました。運転しながら神様に祈りました。「神様！私の娘が気違いになりました。このままで一生を終えさせることは絶対にできません。どうか娘を助けて下さい」と必死で祈りました。そのとき、胸の奥から込み上げるものがあり、涙がとめどもなく流れ出し

ました。彼は、車を止め、ハンドルを握ったまま、声を出して泣きました。そのとき、聖霊のささやきが聞こえてきました。「あなたは、娘が気違いになっても、神を讚美できますか？」という声でした。何ですって？娘が気違いになったのに、それが讚美すべきことですか？「いや、あなたはいつも、何故ですか？どうしてですか？と、神を非難するばかりで、ただの一度も、そのことで神に感謝し、讚美したことがありません。今ここで、この状況を神に感謝し、神を讚美してご覧なさい。」という強い語りかけでした。

彼は、思わず、「神様！私の娘が交通事故に遭って、脳に傷を負い、気違いになったことを感謝します！あなたは偉大な神様、愛の神様です。私はあなたをほめたええです」と、口に出して言いました。彼は、そう言いながらも、内心、自分もおかしくなったのではないかと、思いました。娘が気違いになったのに、有り難い？そんな話がどこにある...？と思いました。しかし、心に語りかけられる声に従って、「神様！私はあなたを讚美します。あなただけが正しい方です。感謝します！」と祈ったあと、再び病院に向かって車を走らせました。

病院に着くと、担当の医者が飛んで来て、「奇跡です。あなたの娘さんが回復の気配を見せています。」と言いました。彼が急いで病室に入ると、娘が小さい声で、「お父さん！」と呼び、半分からだを起こして、父親の首に手を回しながら、「お父さん。なぜ私はここにいますの？」と言いました。その瞬間、父親は、これまでの何年間という苦しみの日々が、あっという間に記憶から消え去ったそうです。

逆境のただ中で、目には何のしるしも見えないのに、ただすべてを感謝し、神を讚美したときに、神がそこに臨まれ、奇跡が起こったのです。いかがでしょう。皆さんの中に、「神様、なぜですか？」と言いたくなるような状況を抱えておられる方がいらっしゃいますか？もし、いらっしゃるなら、ぜひ、その状況をも、神に感謝し、神を讚美しましょう。どこまでも神を信頼し、神は絶対に最善以外はなさらないことを信じて、いつも神に感謝と讚美を捧げる者でありたいと思います。

DREAMS COME TRUE

- ☞ 教会堂の建設
- ☞ 敬老ホームの設立
- ☞ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

新井雅之兄の脳内出血の後遺症のためのリハビリと、癌の治療のために、またすべての必要がみ満たされるように。

倉田一徳さんの脳腫瘍の癒しのために。

日本の家族の救いのために。

英語部の働きのために (英語部の働き人、コースワーカー)

入門者クラスの方々のために (早希姉)

丸田先生、美津子姉、オマー兄、Mary姉、夕紀子姉、かよ姉、美佐江姉、みどり姉のお母様の健康のために。

.....

Desert Wind では 1400 字程度のお証、また質問を募集しています。意見・質問等何でもどうぞ。

lvjccnews@hotmail.com
編集: 真子ガーディナー
松岡みどり

証し: 真子ガーディナー キリスト教との出会いと開眼

私の聖書との出会いは、2002年の結婚したての頃、敬虔なキリスト教徒である義理母の薦めで、ニューヨークの韓国系教会の伝道集会に参加したことです。その頃の主人と私は、毎日喧嘩ばかりの日々でとても華やかな新婚生活とはかけ離れ、離婚をも考える日々が続いていました。そして、見かねた義母に勧められ集会に参加しました。集会一日目は、韓国語でのお話を英語の通訳を通して聞いていましたが、話に集中できず、ただ傍観してました。2日目は、せっかく遠い韓国から来ている義母のために行きたくないと思える出来事、仕事が終わってから渋々と出かけました。その日は、前日とは違い日本語をしゃべれる韓国人の兄弟がマンツーマンでアダムとイブの誕生から私たちの罪を贖って下さったイエス様のお話を教えて下さり、初めて十字架によって私の今まで犯した罪とこれからも犯すであろう罪までもが赦されている事を知りました。この話を聞いたとき、心に大きな光が差し込んだような晴れ晴れとした気持ちになり、キリスト教に回心するようになりました。

義理母の滞りも終え、当時同じNYにいた、義妹と韓国教会の日曜礼拝に行くようになりました。最初は、はりきって教会に行っていたが、兄弟姉妹の証、説教の内容が言葉の壁により、理解できず、聖書を読めば読むほどつまらなく感じ、興味が失せました。そして、夫婦間の問題、喧嘩も少なくなれば、神様にすがり気持も失せ、せっかくの日曜日に教会で半日がつぶれるのがもったいないと思い、教会から疎遠になりました。義理母は、教会発行の月刊誌、讚美歌集、聖書などを与えてくださいましたが、「ありがとう」と言いつつ一度も本を開きませんでした。たまの電話で話せば、神様の事を言うので、いつも右から左へと聞き流してました。

2005年にLAに引越をしてからも、義妹に誘われ「親戚つきあい」の一つとして韓国系の教会へ行きましたが、こども聖書に興味を引かれることはありませんでした。

月日は流れ、ラスベガスへは2007年の5月に引越してきました。義両親もその半年ほど前に、韓国から引越してき

たので、これからは一緒に韓国教会に行かされることになるだろうと思い、私は、生まれながら仏教の家庭に育ったから、仏教に戻ると宣言しました。義理母は、「あなたの家に二つの神様がいて、神様同士が喧嘩するから、私たち夫婦にも喧嘩、問題が絶えない」と言われました。

そんな中、ラスベガスにいる主人の叔母がレストラン経営を始め、義母はよく手伝いに行ったり、親戚一同で応援していました。それもつかの間、その叔母は経営難を苦しめ睡眠薬を飲んで自殺してしまいました。いつも支えあってきた叔母の死で、さぞかし義母も気が狂うほど落ち込んでいると思いましたが、気丈にお葬式、埋葬まで涙一つ見せずに振舞っていました。そんな義母に、「何が彼女をそんなに強させるのだろう」と思いました。それと同時に、死に對してもっと身近に感じ、「私が死んだらどうなるんだろう？どこへ行くのだろう？」とよく考えるようになりました。

当地に引越してきた時から、ラスベガスアイズに載っている教会のメッセージに心を惹かれ、いつも楽しみに読んでいたが、一人で教会まで行くには勇気がありませんでした。けれど、叔母の死や、義理母の強さを見ていくうち、もっと聖書やキリスト教について興味がわき、理解した上で仏教に戻るかの選択をしようと思い、教会に足を踏み入れました。

初めての礼拝で、鶴田先生のお話を聞いたとき、とても解りやすく、こんなにも肩の力を抜いて素晴らしいお話が聞けることに感動しました。今まで、所々聞いた聖書の教えが、全て繋がって来て、こんなに良い教えを今までずっと聞き逃してきたんだ。。と愕然となりました。日曜礼拝のお説教を聞くと、毎回心が洗われる思いです。

そして、入門クラスでは、聖書の基礎の基礎から教えて頂きました。聖書の教えにある「全ての事は必然的な神の導きの中にある」ことを思えば、ここへ引越して来たことは、神様がこの教会を通して、聖書の教えと本当の信仰へと私を導くためであったことを思います。

これからの人生、どんな状況にあっても、神様を見上げることが出来るようになりたいと思っています。

真子ガーディナー



今月の編集室

この10月から始まった教会のブログはもうご覧になりましたか？このブログは、堀田兄弟率いる制作チームにより、教会の活動記録や、お知らせ、イベント情報などが満載です。写真も掲載され、楽しく読める内容となっています。毎週金曜日に更新しています。

<http://lvjcc0822.blog60.fc2.com/>

今年もいよいよ残りわずかとなりました。サンクスギビングから始まったホリデーシーズンは、イベント続きの年始まで食べばかりのような季節ですが、食べすぎと風邪にはお気を付け下さい。

さて、今年は皆様にとってどのような年でしたか？主の恵みを数えつつ感謝し、皆様のうえに主の豊かな祝福とご健康の守りがありますようにお祈りいたします。

Masako & Midori

